

ヨシユア
聖徒伝 62

「主の戦いを 戦おう」

ヨシユア記10～12章 カナン諸民族の征服

【今日のアウトライン】

- 0. イントロダクション
- I. 南部の戦い **10章**
- II. 北部の戦い **11章**
- III. イスラエルの征服地 **12章**
- IV. まとめと適用

恵みの時代に恵みを受け取ろう
主の戦いを戦い抜くために



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

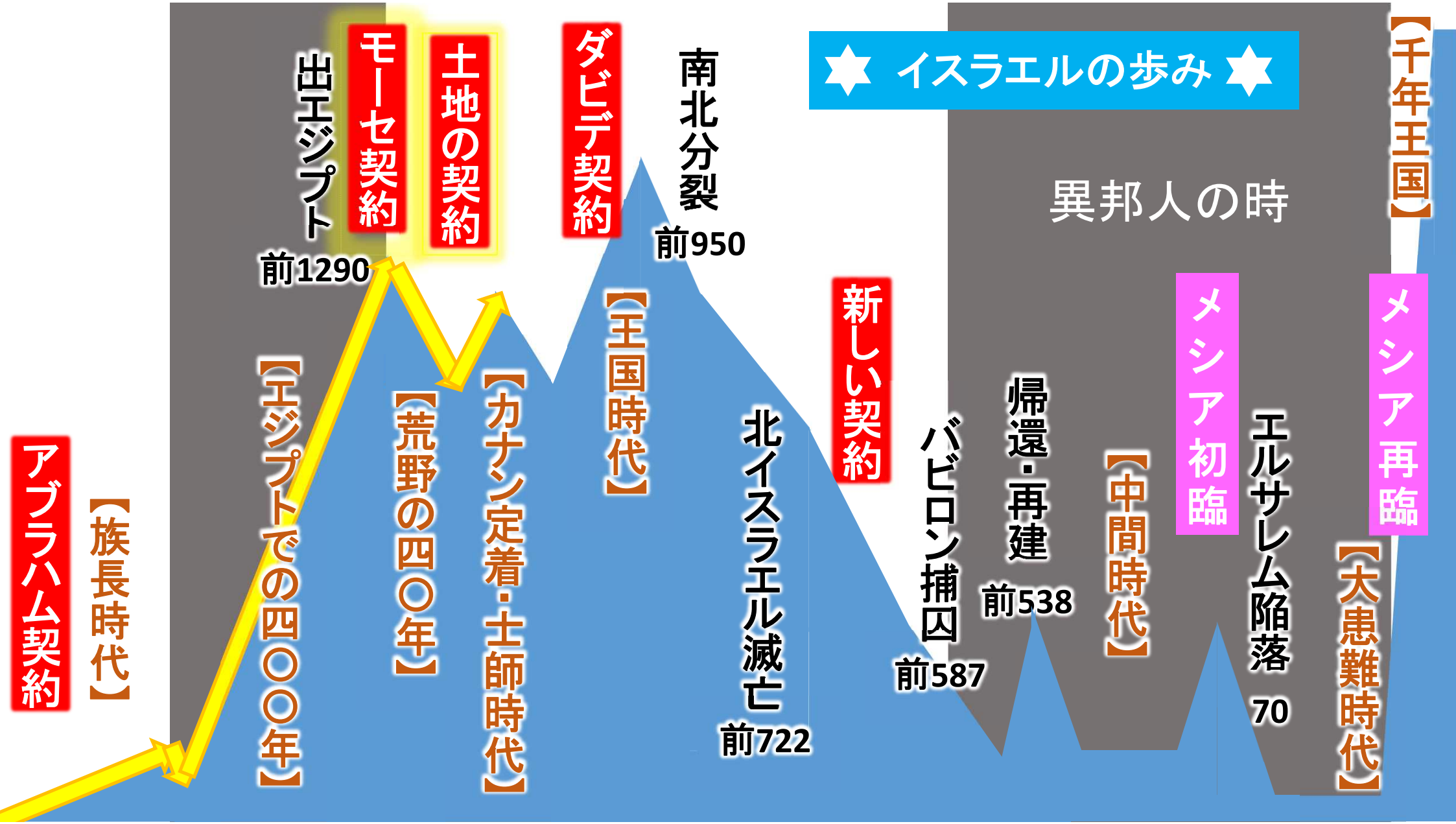
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂

新しい契約

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト

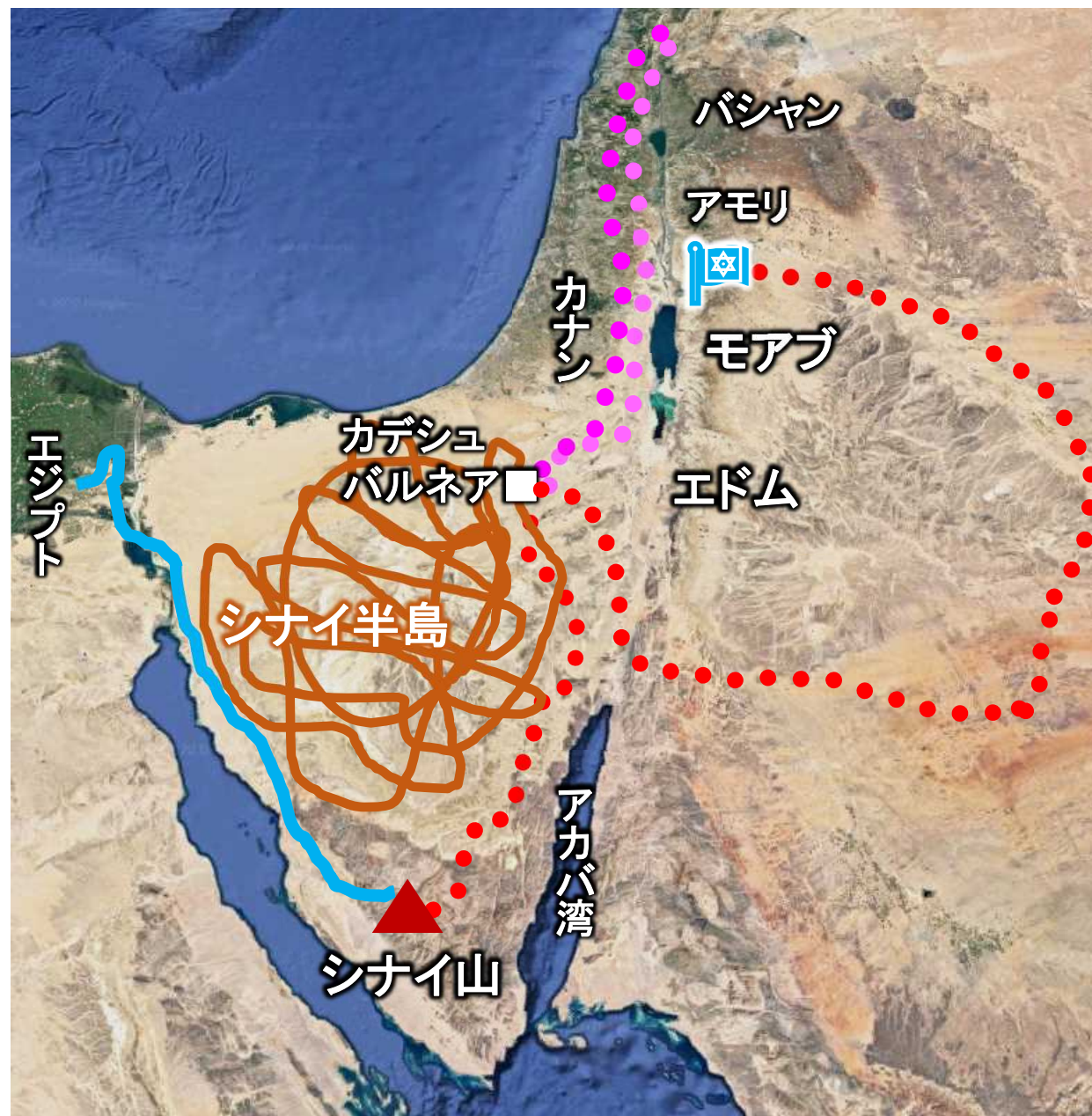
【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



【ヨシュアのプロフィール】

- エフライム族出身(民13:8)。主エジプトの時、40歳。
- モーセの従者(ヨシ1:1)。モーセから訓練を受けた。
- 最初の戦い(vsアマレク)で指揮を執った(出17章)。
- モーセと共にシナイ山に上った(出32:17)。
- ホセア(救い)からヨシュア(主は救い)へ改名(民13:16)
- カデシュ・バルネア事件では、12人の斥候の一人として約束の地に派遣。カレブと二人、進軍を訴えた。この二人だけが約束の地に入ることを許された。
- 80歳で、モーセの後継者となった。
- 110歳でその生涯を終えた。



最初にして最大のエリコの戦い

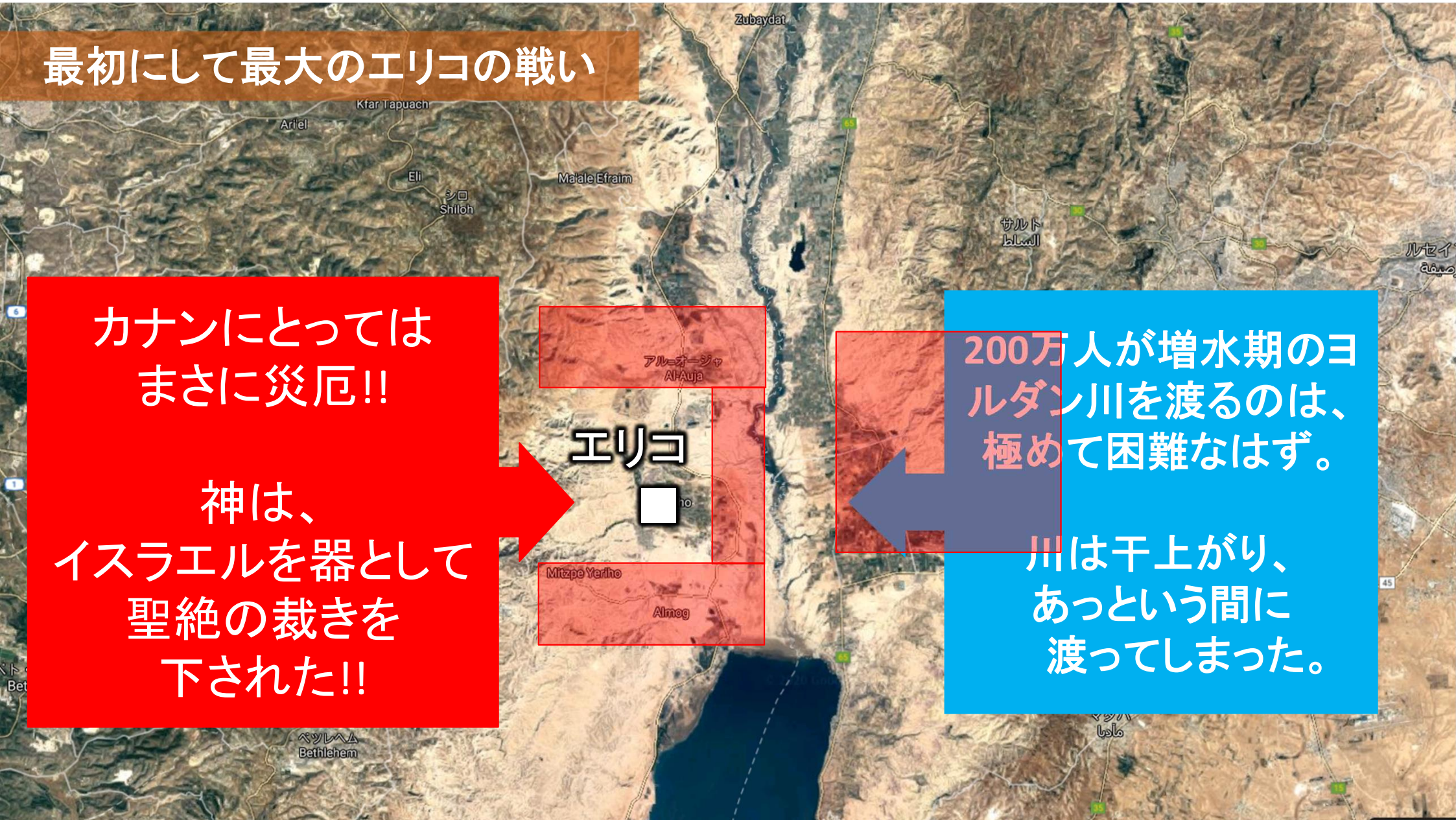
カナンにとっては
まさに災厄!!

神は、
イスラエルを器として
聖絶の裁きを
下された!!

エリコ

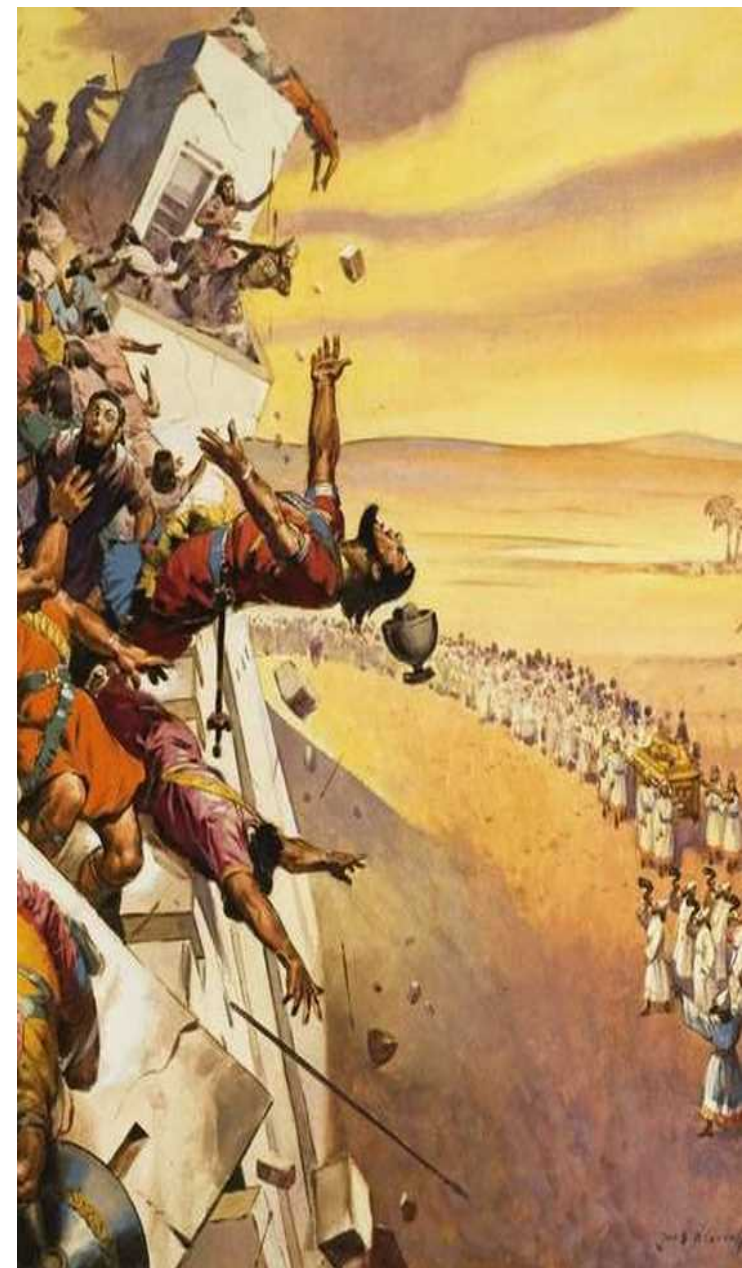
200万人が増水期のヨ
ルダン川を渡るのは、
極めて困難なはず。

川は干上がり、
あっという間に
渡ってしまった。



【カナンの征服戦争・神の裁きの原則】

- カナンには、途方もない猶予期間があった。
カナンは、唯一の主を知っていた。
➡にも関わらず、神に背き通したカナンに、
イスラエルを器として、裁きがくだった。
- 個々人には、主を信じて救われる道があった。
- イスラエルは、徹底した従順が求められた。
➡聖絶の戦いをけがした者は、聖絶される。
- イスラエルは、身をもって、神の聖なることを、
律法の定めた祝福と呪いを味わい知らされた。



【戦術的に見る、カナン征服戦争】

■ カナンの戦いは基本的に攻城戦。

城壁で囲まれた町々を攻略していった。

➡ 通常、膨大な戦力と物資、時間が必要。
前の砦を落とさなければ、進めない。

■ イスラエルの進軍ルート

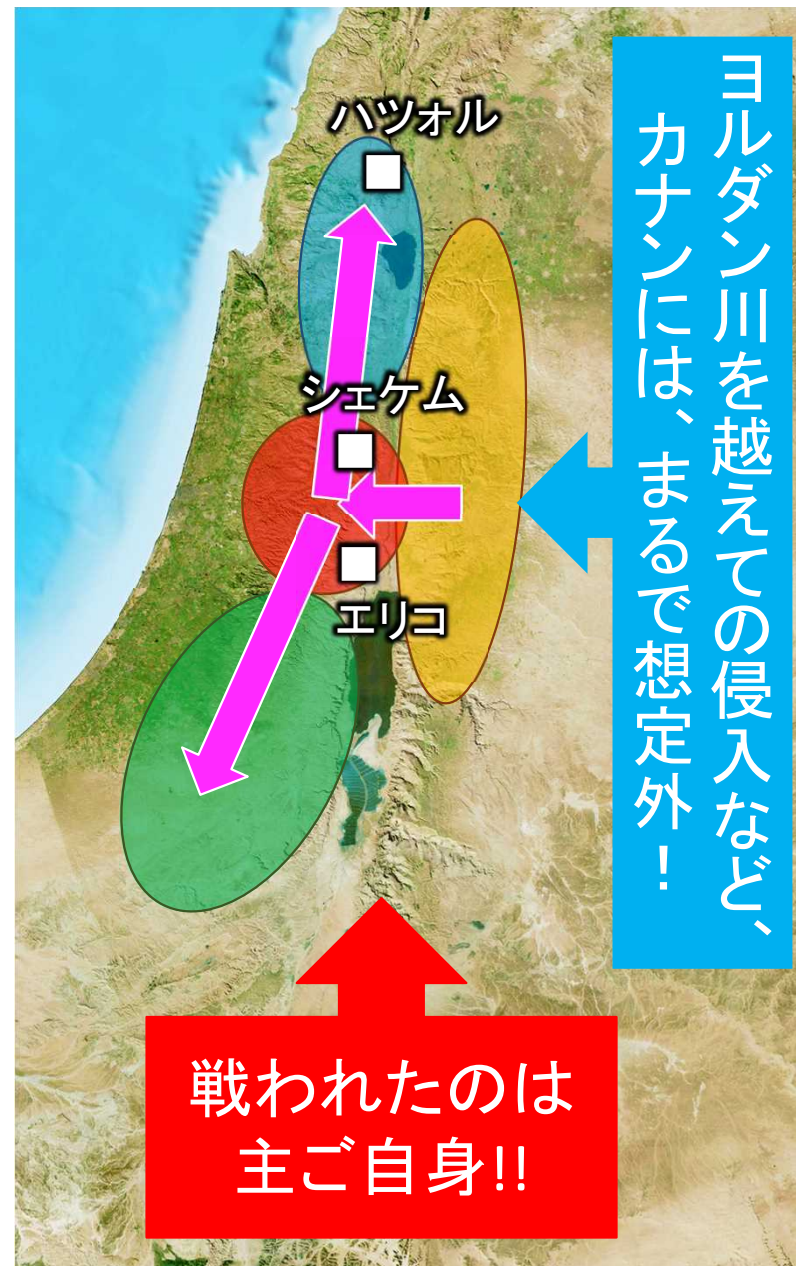
① ヨルダン川東部 ➡ 後顧の憂いをなくす

② 中央部 ➡ 干上がったヨルダン川を渡り、
不意を突き、最大勢力を撃破
中央部を押さえ、敵勢力を分断

③ 南部 ➡ 南部の諸民族を撃破

④ 北部 ➡ 北部の諸民族を撃破

今日はココ



I. 南部の戦い

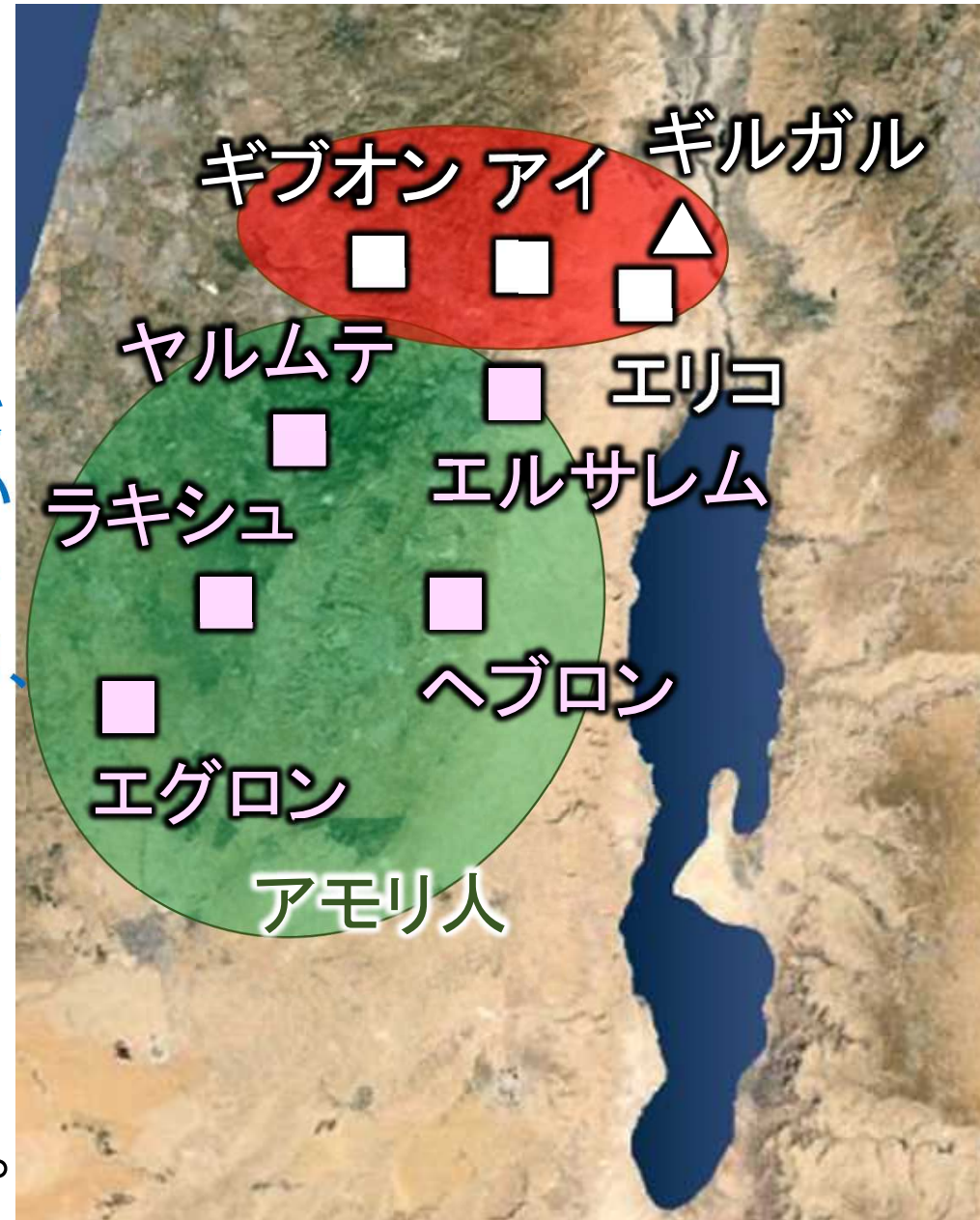
ヨシュア記10章



【恐怖したアモリ人】 ヨシュア10:1～7

エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがアイを攻め取って、それを聖絶し、エリコとその王にしたようにアイとその王にもしたこと、またギブオンの住民がイスラエルと和を講じて、彼らのただ中にいることを聞いた。彼とその民は非常に恐れた。ギブオンが王国の都の一つのように大きな町であり、またアイよりも大きく、そこの人々がみな勇士だったからである…。

- アモリ人5都市が連合して、裏切り者のギブオンを襲った。
- ギブオンは、ヨシュアに助けを求めた。



【ベテ・ホロンの戦い】 ヨシュア10:8～11

【主】はヨシュアに告げられた。「彼らを恐れてはならない。わたしが彼らをあなたの手へ渡したからだ。あなたの前に立ちはだかる者は彼らの中に一人としていない。」ヨシュアは夜通しギルガルから上って行って、突然彼らを襲った。

- 海拔-300mから700mへ。標高差1000m、35kmの道のりを登り切ったの強襲、追撃。
- 敗走する敵の上に、巨大な雹が降り注ぎ、剣で死んだ者よりも多くの被害者が出た。
➡ 雹は、主ご自身の裁きの象徴(黙8:7)



【静止した日】 ヨシュア10:12～14

【主】がアモリ人をイスラエルの子らに渡されたその日、ヨシュアは【主】に語り、イスラエルの見ている前で言った。「太陽よ、ギブオンの上で動くな。月よ、アヤロンの谷で。」民がその敵に復讐するまで、太陽は動かず、月はとどまった。これは『ヤシャルの書』に確かに記されている。太陽は天の中間にとどまって、まる一日ほど、急いで沈むことはなかった。

【主】が人の声を聞き入れられたこのような日は、前にも後にもなかった。【主】がイスラエルのために戦われたからである。

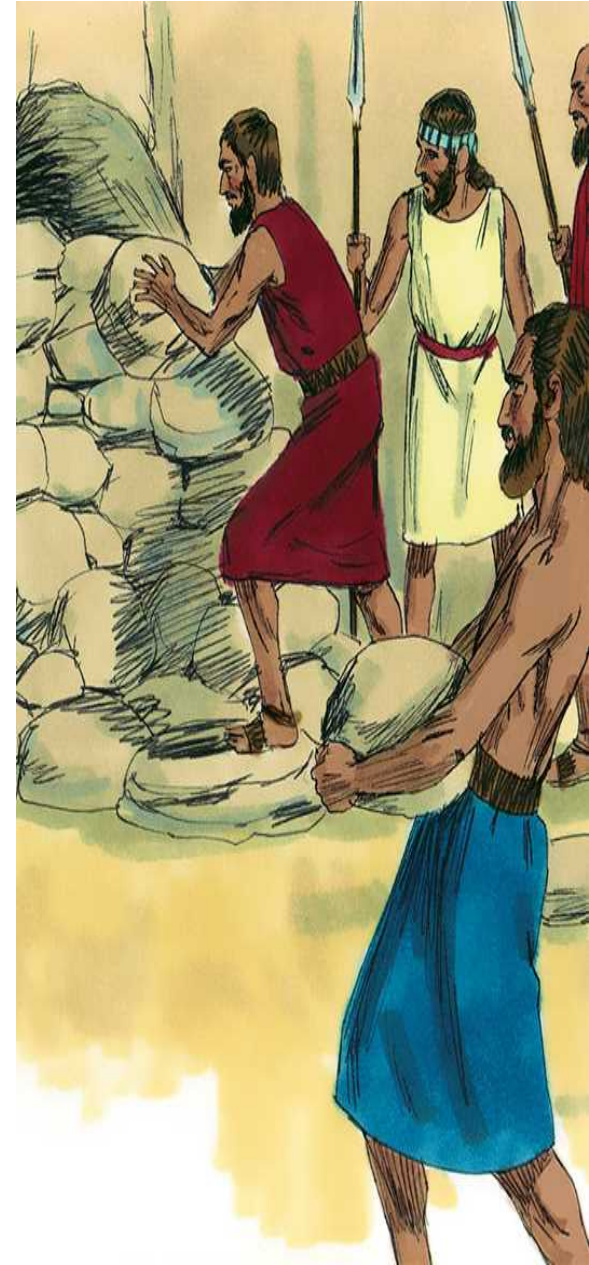
- これに匹敵するのは、日が戻った奇跡(Ⅱ列20:11)。
➡この次元の法則を超越できるのは、創造主だけ!!



【5人の王の死】 ヨシュア10:15～27

- イスラエルは、敵を追撃し、壊滅的な打撃を与えた。カナンの民は、イスラエルを恐れた。
- 連合軍の5人の王は、洞窟に隠れていたのを発見され、戦いの後、引き出され、首を踏みつけられた。イスラエルの勝利が宣言され、カナンの民は恐れた。
- 主に反逆した5人の王は、殺され、木にかけられて呪われ、遺体は洞穴に投げ込まれて、閉ざされた。

10:25 ヨシュアは彼らに言った。「恐れてはならない。おののいてはならない。強くあれ。雄々しくあれ。あなたがたの戦うすべての敵に【主】がこのようにされる。」



【さらなる南部の戦い】 ヨシュア10:28～39

10:28 その日、ヨシュアはマケダを攻め取り、この町とその王を剣の刃で討った。彼らとそこにいたすべての者を聖絶し、一人も残さなかった。彼はエリコの王にしたようにマケダの王にした。

■ 同様の聖絶が、南部の諸都市に下された。

①マケダ ➡ ②リブナ ➡ ③ラキシユ
➡ ④エグロン ➡ ⑤ヘブロン ➡ ⑥デビル

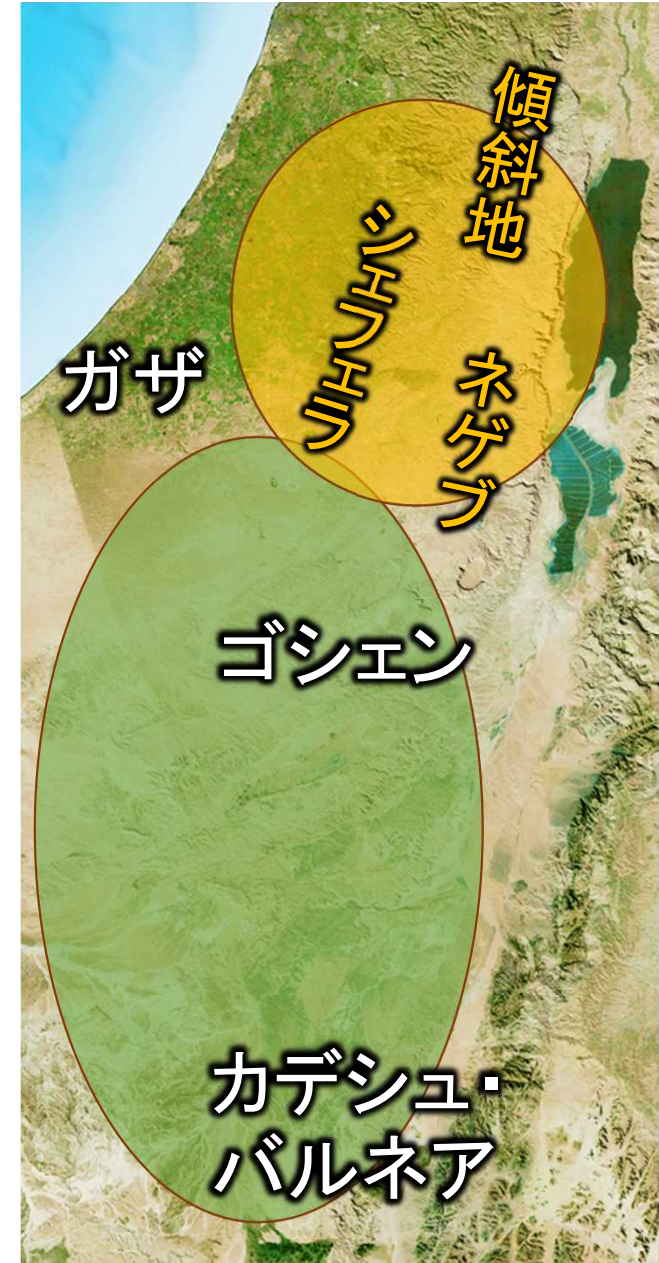


【南部の征服】 ヨシュア10:40～43

ヨシュアはその全地、すなわち、山地、ネゲブ、シェフェラ、傾斜地、そのすべての王たちを討ち、一人も残さなかった。息のある者はみな聖絶した。イスラエルの神、【主】が命じられたとおりであった。

ヨシュアはカデシュ・バルネアからガザまで、および、ゴシエンの全土をギブオンに至るまで討った。

これらすべての王たちと彼らの地を、ヨシュアは一度に攻め取った。イスラエルの神、【主】がイスラエルのために戦われたからである。ヨシュアは全イスラエルとともにギルガルの陣営に戻った。





Ⅱ. 北部の戦い ヨシュア記11章

ハツオルの遺跡跡

【北部に結成された連合軍】 ヨシュア1:1～6

ハツオルの王ヤビンはこのことを聞いて、マドンの王ヨバブ、シムロンの王、アクシャフの王、また、北方の山地、キネレテの南のアラバ、シェフェラ、西方のドルの高地の王たち、すなわち、東西のカナン人、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、山地のエブス人、ヘルモンのふもと、ミツパの地のヒビ人に人を遣わした。

彼らはその全陣営とともに出て来た。海辺の砂のように大勢の兵で、馬や戦車も非常に多かった。

これらの王たちはみな集まり、進んで行き、イスラエルと戦うためにメロムの水のほとりでともに陣を敷いた。

【主】はヨシュアに告げられた。「彼らを恐れてはならない。明日の今ごろ、わたしは彼らをことごとく、イスラエルの前で刺し殺された者とするからだ。あなたは彼らの馬の足の筋を切り、彼らの戦車を火で焼け。」



【北部連合諸国の聖絶】 ヨシュア11:7～15

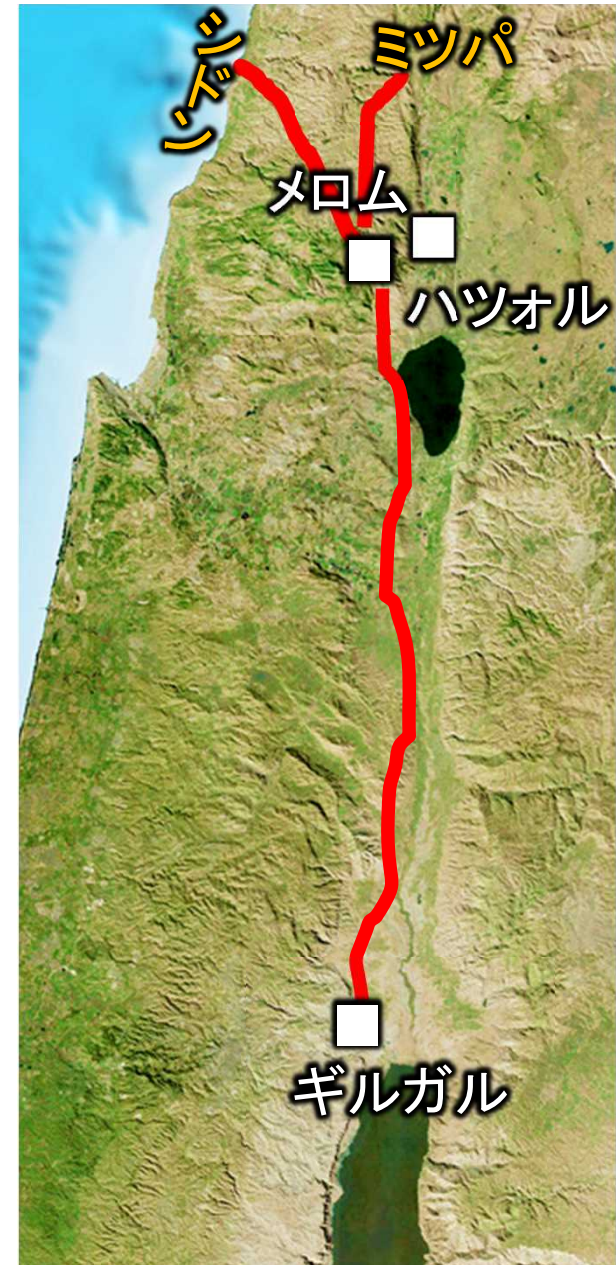
■ヨシュアは、北部連合の集結地メロムを急襲。

さらに北西のシドンや北東のミツパまで追撃した。

■最後にヨシュアは、盟主ハツオルを陥落、聖絶した。

11:14 これらの町々のすべての分捕り物と家畜を、イスラエルの子らは戦利品として自分たちのものとした。人間だけはみな剣の刃で討ち、根絶やしにした。息のある者は一人も残さなかった。

11:15 【主】がそのしもべモーセに命じられたとおりに、モーセはヨシュアに命じ、ヨシュアはそのとおりに行った。【主】がモーセに命じられたすべてのことばを、彼は一言も省かなかった。



【ヨシュアの戦いの全貌】 ヨシュア11:16～23

- ヨシュアは、長い時間をかけて広範囲を占領した。特に、南部のアナク人との戦いが激しかった。一部を残して、アナク人は滅ぼされた。

11:20 彼らの心を頑なにし、イスラエルに立ち向かって戦わせたのは、【主】から出たことであった。それは、彼らを容赦なく聖絶するため、【主】がモーセに命じられたとおりに彼らを根絶やしにするためであった。

11:23 ヨシュアはすべて【主】がモーセに告げられたとおりに、その地をことごとく奪い取った。ヨシュアはこの地を、イスラエルの部族への割り当てにしたがって、相続地としてイスラエルに与えた。そして、その地に戦争はやんだ。



Ⅲ. イスラエルの占領地

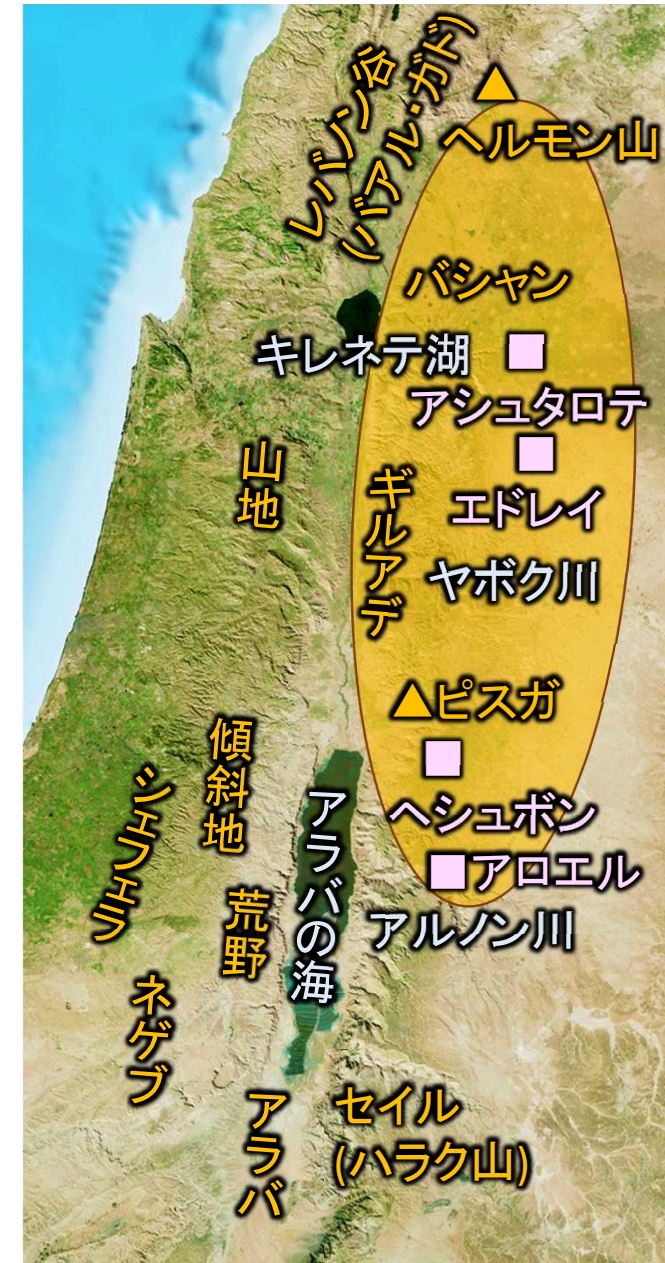
ヨシュア記12章



【ヨルダン川東岸の征服地】 ヨシュア12:1～6

ヨルダンの川向こう、日の昇る方で、アルノン川(最南)からヘルモン山(最北)までの全東アラバにおいて、イスラエルの子らが討ち、占領した地の王たちは次のとおりである。

- イスラエルが最初に占領した、ヨルダン川東岸の地域が詳細に語られる(12:1～6)
- 東岸南部のヘシュボンの王シホンと、東岸北部のバシヤンの王オグ。強大な二つの王国を破り、イスラエルのルベン族、ガド族、マナセ族の半分が、相続地を得た。



【征服した王(王国)の列記】 ヨシュア12:7～24
ヨルダン川のその反対側、西の方で、レバノンの谷のバアル・ガド(最北)から、セイルへ上るハラク山(最南)までで、ヨシュアとイスラエルの人々が討ったその地の王たちは、次のとおりである。ヨシュアはイスラエルの部族に、彼らへの割り当てにしたがって、この地を所有地として与えた。
この王たちは山地、シェフェラ、アラバ、傾斜地、荒野、ネゲブに住んでいて、ヒッタイト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人であった。

■これらの民の土地をイスラエルに与えるという、主の約束は、成就された。(出3:8他)



A landscape photograph showing a valley with green hills and a river. The foreground is dominated by tall, golden-brown grasses and scattered rocks. The middle ground shows a river winding through a valley between green hills. The background features more rolling hills under a clear sky. The text is overlaid on the top half of the image.

まとめと適用

**恵みの時代に恵みを受け取ろう
主の戦いを戦い抜くために**

【改めて主の裁きの原則を確認しよう】

■主は、人々にご自身を知らされ、

裁きに先立って、途方もない猶予期間を与えられる。

カナンは、唯一の神を知っており、400年以上の猶予期間が与えられた。

■主は、時が来たら、容赦ない裁きを下される。

それでも、個々人の救いの道は残されている。

➡主を恐れ、信じて、ラハブと家族は救われた。

➡ギブオンは、主を恐れ、イスラエルの奴隷となって生き延びた。

■神は、イスラエルを、裁きの器として用いられた。

➡イスラエルには、徹底して主に従うことが厳しく求められた。

【主が心を頑なにされるとは？】

11:20 彼らの心を頑なにし、イスラエルに立ち向かって戦わせたのは、【主】から出たことであった。それは、彼らを容赦なく聖絶するため、【主】がモーセに命じられたとおりに彼らを根絶やしにするためであった。

- 人には自由意志が与えられている。それは、神を愛し、人を愛するため。悔い改めて、救いを得るチャンスは、すべての人に与えられている。神に背き、神の民を憎み続けていくなら、いつかその機会は失われる。
- 全知全能の神は、すべてのことに最終的な責任を負われる。それが、神に背き続けた者を裁くということ。

【恵みの時に、恵みを受け取ろう】

■ 人間の過去の文明はことごとく滅んできた。栄枯盛衰が世の定め。

■ 愛の神の一方的な介入がなければ、人類はとうの昔に滅んでいた。

破壊の限りを尽くしながら、なお人類は、主の憐れみに生かされている。

■ 私は、今この瞬間を、ただ主の憐れみによって生かされていると知ろう。

自分の罪を思い知らされたなら、あとはただ、恵みを味わい尽くすだけ。

■ 主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。ただ信じるなら、永遠の祝福が与えられる。

■ 生かされているだけのこの身と分かれば、主への感謝しかない。

命の御言葉を味わい尽くそう、この喜びと平安を、人々に伝えていこう。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

滅(ほろ)びるだけだった わたしを、

主よ、あなたは、あわれみの内(うち)に 生(い)かしてくださっています。

あなたの 確(たし)かな約束(やくそく)に 基(もと)づく恵(めぐ)みを、

しっかりと 受(う)け取(と)らせてください。

この感謝(かんしゃ)と 喜(よろこ)びを 証(あかし)する者(もの)として、

世(よ)につかわしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」